

「父よ、あなたの国が」

マタイの福音書 6章 9～15節



「御国」とは、私たちが「おとうさん」と呼んで祈る、父である神の国のことです。それは神のものというだけではなく、神ご自身の支配が行き渡っているところのことです。イエス様の時代に「神の国」と聞いてイスラエルの人々がイメージしたのは、ローマの支配から解放されて自分たちイスラエル民族の国が再興することでした。しかしイエス様の語られた「神の国」とは、ローマでもイスラエルでも日本の国でもない、人ではなく、神ご自身が治められるところのことです。

① 神ご自身が治められる国

“御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。” 9-10

“神は人をご自身のかたちとして創造された。…神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」”
創世記 1:27-

“また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。」…「王の王、主の主」…。” ヨハネの黙示録 19:6-

② 神の国の民とされた私たち

“ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」” マル 1:14-

“このキリストを通して、…あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。” Iペリ 2:18-

③ 神の国を待ち望んで生きる

“心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。” マタイ 5:3

“私たちも、子にさせていただくこと、つまり、体の贖われることを、心の中で呻きながら待ち望んでいます。私たちは、この希望のうちに救われているのです。” ロマ 8:23- (聖書協会共同訳)

“しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。” ピリ 3:20

○思い巡らしてみましよう

- ・あなたは「神の国」を待ち望んでいますか。地上の人生を終えて神のもとに迎えられることだけでなく、今の自分の人生に「神様の支配がおよぶ」とはどういうことだと思えますか。